

「ネットワークを作り上げる楽しさ」実感

管理職の理解、地域の有志がサポート

前橋市教育委員会 折田一人指導主事（前・前橋市立第四中学校）

<プロジェクト以前>

私は、パソコン通信のBBSを校内でシミュレートして、電子会議室で生徒同士で意見交換する実践をしたりしていました。また、前橋市にもグリーンネットという教育用パソコン通信のネットワークがあり、コンピュータ教育の意見交換などを行っていました。インターネットの利用は、上越教育大学の大学院に2年間（平成5～6年）内地留学していたときに、はじめて経験しました。

実践の経過、教訓

地域の技術者に協力呼びかけ

100校プロジェクトには、群馬県内では前橋市立第四中学校が1校だけ参加しました。100校プロジェクトの「各校にサーバを置く」、「UNIXを利用する」というのは先進的であり、思い切ったことでした。しかし、技術サポートは十分ではなく、配布されたサーバも不安定で、しかもUNIXサーバを自由に使いこなすには技術が必要で、随分と苦労しました。



実践面では、国際交流や環境に関するテーマのプロジェクト（囲み欄参照）を主導したり、他校が主催するプロジェクトにメンバー校として参加したりしました。

私は当時から、十分な教育を行うためには、ICT環境として「子どもたち一人につき一台のネットワーク環境が必要である」と考えていました。そこで、自分で部品を購入し組み立てたコンピュータを授業で使うほか、教育委員会を説得して20台のコンピュータを追加整備してもらいました。また、その後は各教室でもインターネットが利用できるように校内のネットワーク化を進めるため、地域に住むコンピュータ技術者の方たちに協力を呼びかけました。そこで、前橋に引っ越してこられた大日本印刷の中島さんを中心に「インターネットつなぎ隊」ができ、学校内のLAN配線などの支援を受けることができました。

生徒の積極性が増す

実践の成果としては、学力テストの成績が上がるといった表面的な成果ではありませんが、生徒たちの学習意欲の向上といった面での効果は大きかったと思います。特に当時はインターネットに接続できる環境がまだ珍しく、生徒たちにも自信がついたようです。積極性が増し、発表会での発表も堂々としていました。

ガイア・プロジェクト

ガイア・プロジェクトは上越教育大学附属中学校・藤田先生が発案し、千葉大学附属中学校・芳賀先生がホームページの運営を行い、共同教材、共同データベース開発といったコラボレーションを目的にスタートした。「地球・こども・未来」を主なテーマに、生徒や学校の先生など、ガイアのページを訪れた人たちが、作品を発表しあって交流したり、意見交換を行い共同で学習を行ったりすることを目指した教育プログラム。前橋四中ではガイア・プロジェクトで、例えば「画像ランキング」として、Webベースで画像を並べ替えられる仕組みを用意し、生徒たちが話し合いながら各視点ごとに並び替えを行うなどの活動を行った。<http://www.cec.or.jp/es/E-square/h09jishi/2/24/index.html>

国際交流活動

前橋四中の新聞委員会の生徒が校内で熱心に新聞を作っていて、当時フランスの核実験について問題があり、それを題材にアンケートをとりた、という話になった。そのアンケート（日本語・英語）をホームページに載せてみると、非常な反響を呼び、1か月に約2000のアンケートが来て、急遽、学校全体で取り組むことになった。その後、エイズにもテーマを拡大した。

スクールニュース・プロジェクト

前橋四中が幹事校になり、日本人学校をネットワークで結ぶプロジェクト。13～14校が参加。毎月1回テーマを決めてスクールニュースを作り、ホームページにアップした。

なお、プロジェクトの実践を通して私が学んだことは、複数の参加校の担当者同士の連絡・調整が重要だということです。それにより参考になる事例もたくさん聞くことができます。問題は、いかに継続し、広げていくかということですが、継続のためには逆に期限を切ってプロジェクトを実施し、終了後、また次のプロジェクトを実施するなどの工夫が有効でした。

時間がかかることがネック

1つのことをやろうとすると、うまく回転するまでに時間がかかることがネックでした。例えば、学校のWebページの作成は委員会活動という形式で行いましたが、週1回のペースでも生徒にとっての負担は大きかったようです。当時はまだ「総合的な学習の時間」がなく、ICTを活用した授業実践を行うことが困難でした。



フランスの核実験についてアンケート

また、技術がネックになり、アイデアを持っている先生だけでは、残念ながらICTを活用した授業をすることができないことも課題でした。私は技術科の教員で担任もしていましたが、担任を持ちながら他の先生を技術的に支援することが困難になったこともあり、前橋四中の3年目からは、副担任となり、技術支援を行う側に回りました。

10年間を振り返って

「活用していて面白い」がICT活用の原動力

10年近くICTを活用した授業を企画・実践してきたのは、「やっていて面白い」というのが第1の理由です。技術的にもそうですが、生徒たちが新しいことにチャレンジし、様々な活動をする中でいろいろな発見をする姿を見ることは楽しいことです。

また、人的、物的な「ネットワークを作り上げる楽しさ」があります。前橋市立第四中学校に在職していたときも、徐々にネットワークが進化することを体験できました。

<成功の秘訣>

プロジェクトを継続し、ICTを活用して成果を上げるためには、次の5点が重要だと思います。

支援体制

当時の前橋市立第四中学校では、管理職の方がICT活用に理解があり、話がしやすい環境でした。指導主事の方も理解のある方で、実践結果をまとめたものを教育委員会内で回してくれるなど、PRの面ですぐいぶんお世話になりました。

人間関係

積極的にさりげなく自分から他の教員を巻き込むようにしました。日頃のさりげない会話の中で「自分はこんなことをしている」と、自然に輪が広がっていくように心がけました。

技術的支援

技術的な部分は私がフォローし、「技術的なことを他の先生に押し付けない」ように気をつけました。

個別的な支援

研修など決まった形の支援より、ケースごとの個別的な支援の方が役立つと思います。

すべてのリソースを使う

校内外の他の先生の力を借りるなど、利用可能なすべてのリソース（人的資源、物的資源）を使うことが重要です。

<今後、ICTを活用した教育を行う上で重要なこと>

ハード面では、各教室にプロジェクトを導入することではないでしょうか。地上波テレビへの対応と連動させて、コンピュータやネットワークを既存のテレビ・ビデオ・掛図などと置きかえ可能だと思います。ソフト面では、教育用の特殊な事情（管理者がいない、児童生徒が試行錯誤するなど）を考慮して、管理負担を軽減するOSが望まれます。実践面では、情報科学や情報モラルの指導を一層、小学校から系統的に行う必要があると思います。